

## 田浦小学校・長浦小学校教育環境整備地域説明会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)12月3日(日)18:00~20:00

2 場 所 田浦コミュニティセンター 集会室

3 参加者 27名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷 久乃
	学校教育部	部長	川上 誠
	学校管理課	課長	二見 裕
	教育政策課	課長	飯田 達也
	教育政策課	主査	大堀 圭輔
	教育政策課	主任	高品 慎介

5 議事内容

### ○飯田教育政策課長(事務局)

定刻になりましたので、田浦地域の教育環境整備についての説明会をはじめます。

本日、説明会の進行をつとめます、横須賀市教育委員会教育総務部教育政策課長の飯田と申します。

よろしくお願ひします。

教育委員会事務局の職員を紹介します。

《 事務局職員紹介 》

なお、本日の説明会は、会議録を作成するため、録音をしたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、お配りしました資料の2ページをご覧ください。ページ数については、資料の右下に記載しています。

まず、本日の説明会の趣旨について、説明します。

横須賀市教育委員会では、令和4年3月に策定した「横須賀市教育環境整備計画」に基づき、人口減少が進む本市において、学校規模の小規模化、施設の老朽化及び通学区域に関する課題等の解決に向けた検討を行い、市立小中学校の教育環境の整備を行うため、令和4年5月23日に田浦地域及び走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。

すでに新聞報道等によりご存知の方もいらっしゃると思いますが、令和5年10月31日に、横須賀市立小中学校適正配置審議会から教育委員会へ「田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策が妥当である」と答申されました。

本日は、答申までの経緯や答申内容等について、皆さまへ説明し、ご意見等をいただくため、説明会を開催いたしました。

なお、具体的な方策の決定につきましては、令和6年1月に予定している教育委員会議等による審議を経て決定されます。

本日ご参加いただきました皆さまにおかれましては、答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、さまざまなご意見や疑問、ご不安をお持ちかと思っております。

まず、事務局より説明を行い、説明後、皆さまからのご質問やご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、田浦地域の教育環境整備について、担当より説明します。

◀ 田浦地域教育環境整備について事務局から説明（資料） ▶

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、これより、質疑応答を行います。

答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、なんでも結構です。

ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いします。

#### ○参加者

田浦小学校に子どもを通わせているものです。小規模校が問題というように、教育委員会の方はおっしゃられていますが、児童数が少ないことが問題だとは思っておらず、むしろ、きめの細かい教育をしていただけて、大変ありがたい環境だと思っています。

また、田浦小学校は、インクルーシブ教育に力を入れており、支援級と通常級の垣根が大変低いです。

アーティスト村との交流も盛んという稀有な環境であり、現時点でもこの環境に惹かれて、学区外から通っているお子さんが多くおられます。小規模特認校に指定しても良いのではないだろうかと思っています。

また、統合の時期として、最短で令和7年度を予定しているという記載がありました。

子育て中のご家庭におかれましては、各家庭に人生設計があり、田浦に住んでいたり、田浦小学校に通われていることと思っております。

今まで田浦で新築が建てば、子育て世帯の方が引っ越してくることが多々ありました。

田浦から学校がなくなると、そのようなことは全くなくなるのではないかと危惧しています。学校から遠いからと、引っ越す家庭もあると思います。

仮に統合するしかないとしたら、なるべく長く準備期間をいただきたいです。

統合の理由の一つとして、校舎の老朽化が挙げられていますが、横須賀市が制定している学校施設の長寿命化計画によりますと、田浦小学校は鉄筋コンクリート造で耐震工事を行っていますので、校舎の目標耐用年数は80年ということになっています。古い方の校舎は築70年ということですので、理論上は残り10年寿命があるということになります。もちろん補修が必要となってくる箇所があると思いますので、適切な修繕をし、なるべく長く小学校として使用していただきたいと思います。

そのようになるべく長くの準備期間をいただければ、その分多くのご家庭が柔軟に対応することが可能だと考えています。田浦の子育て中の保護者のために、田浦の地域のために、なるべく長く小学校として活用していただけますようお願い申し上げます。

また、長浦小学校と統合ということになりますと、適正な通学距離である2キロメートルを超える遠距離通学であり、トンネルなどの課題があるため、通学に関する何らかの対応が必要というのはいまひとつのことと思います。

路線バスの補助という話があるようですが、特に低学年の児童については、路線バスの乗り降りに不安がつきまとうこと、乗り過ぎた際や予期せぬ事態が起きたときに、どのように対応すべきか、児童だけでは判断が難しいことを鑑みると、スクールバスでの通学が児童や保護者にとって最も安心できる通学手段となることと思います。

ぜひ、全学年の行き帰りのスクールバスの運行をお願いします。また、統合するのであれば、児童や保護者のために、通学に関する対応策を明確にした上で、統合を決定していただけるようお願い申し上げます。

### ○川上学校教育部長（事務局）

貴重なご意見ありがとうございます。小規模校の良さというところの部分について、コメントさせていただきます。

資料の6ページに記載されている内容に関連します。

先生方、保護者のご協力をいただきながら、さまざまな工夫をして、教育活動の充実を図って、小規模校のメリットを最大限に生かしているという認識はあります。

ただ、教育委員会としては、その適正規模という形の中で、小規模のメリットを生かしつつ、さまざまな形態や、人数等で活動ができるようなことをしながら、学習指導要領の中で求められている、多様な意見を入れながら、考え方、表現力、判断力、そういったものを身につけるような形にするというところでは、適正規模になる方策があるのであれば、それを追求したいという方針を持っています。

インクルーシブ教育、支援級と通常級との交流という部分で言えば、市内のどこの学校も、さまざまなやり方をしてはいますが、交流をしていますので、ご心配いただくことはないと思っています。

### ○飯田教育政策課長（事務局）

アーティスト村の件につきましても、色々なところでご意見をいただいているところだと思います。仮に統合があった場合でも、アーティスト村も一緒に、色々なお話を聞きながら、事業等を一緒にやっていければと思います。

統合の時期というお話ですが、教育委員会の考え方としては、施設の老朽化であるとか、小規模化の問題というものはできる限り早く解決していかなければいけないと思っています。

ただ、こういったご意見を伺っていますので、決定機関である教育委員会議、それから市長が出席します総合教育会議の方には必ずお伝えしたいと思っています。

スクールバスを全学年の行き帰りで確保して欲しいというご意見につきまして、通学支援の確実な運用というものは、色々なところでお話をいただいていますので、ご意見をいただきながら検討したいと思っています。

ただ、スクールバスや通学の補助など色々なご指摘をいただいたと思いますが、どちらにしても良いところ悪いところがあると思いますので、こういったところを検討していきながらしっかりと協議したいと思っています。

### ○二見学校管理課長（事務局）

学校の長寿命化計画について、まさにお話いただいたとおり、我々は長寿命化計画の中で、鉄筋コンクリートの校舎の耐用年数を目標として 80 年間と見ていることは間違いございません。

ただ、その中で、田浦小学校は、大きな工事を入れている金額だけ申しますと、ここ 10 年間で約 6,000 万円を校舎の維持管理に使っています。その他には学校へ配当させていただいている予算や小さな修繕等を含めて、そのくらいのお金がかかっているという現実はお伝えさせていただきます。

### ○参加者

10 年間で 6,000 万というお話がありましたが、これは他の学校と比べて著しく高い金額なのですか。

### ○二見学校管理課長（事務局）

工事の種類によって、大きなお金がかかるものとそうでないものがあります。

例えば田浦小学校ですと、少し古いお話ですが、平成 26 年にトイレの改修工事を行っています。これにかかった費用が 1,600 万円程度です。今このトイレの改修工事をするとなると、同レベルのもので、物価の上昇などもありますので、3,000 万円から 4,000 万円かかります。

田浦小学校と他の学校を一概に比べてみて、高いか安いかと言うと、古さの度合いによって、かけなければいけないところがあったり、立地の状況によって、外壁や屋上防水など、年数だけではない現況などを確認しながら行っています。

そのため、他の学校と比較して高いか安いかというのは一概には言えませんが、古くなってくればそれなりにお金はかかってしまいます。

また、校舎の規模によっても変わりますので、どこが高い、安いといった視点は持ち合わ

せていません。

#### ○参加者

ありがとうございます。トイレの改修の話がありましたが、平成26年に行われたということで、まだとても綺麗な状況ですので長く使っていただきたいと思っています。

適正規模校というお話が先ほどありましたが、8ページに記載されている小学校の学校規模の状況を見ますと、田浦小学校は児童が6番目に少ないということなので、統合も6番目でも良いのではないかなと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

今回の統合については、規模だけではなく、今ちょうどお話がありましたとおり、学校施設が老朽化をしていて、築70年となっています。80年が長寿命化計画の中では限界となっていますので、早急に建て替えについては検討しなければならない状況だということです。

小規模と建て替えの状況とあわせて、今回、田浦と長浦については、早い段階での検討をさせていただいています。

同じように1番目にある走水小学校は全校児童32名ということで、こちらについては小規模が喫緊の課題、もうすでに複式学級になっている状況ですので、同時期に検討しているところです。

逸見、沢山、汐入については、この地域は広範囲になりますので、今回の統合の検討の次の段階の後期計画で検討したいと考えているところです。

#### ○参加者

逸見、沢山、汐入の話がありましたが、何年か後に後半の計画が予定されているということですが、それまでに田浦と長浦を統合しなければならないというわけではないのですか。この時期が、例えば5年延びるとか、そのような可能性はあるのですか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

13ページをご覧ください。今回の教育環境整備の計画の中で、まず前期に走水と馬堀、田浦と長浦ということで挙げさせていただいております。その次に逸見・中央地域ということで、逸見、沢山、汐入について挙げさせていただいております。

これは、田浦と長浦、走水と馬堀の統合が行われてからでないとは着手しないということではなく、現在、市議会の方からも、なるべく早く学校の教育環境整備について取り組みなさいというお話をいただいておりますので、こちらについても、なるべく早く、この計画よりは前倒しの状況で検討したいと考えているところです。

#### ○参加者

決定のやり方について、14ページのところで①から④までありますけれども、今回のこの地域の説明会というのは、この④の方策の決定に当たって、この地域の意見を聞くということになっているのでしょうか。

答申があって、教育委員会の方で最終的に決定するのではなく、決定に当たって、この地域の説明会での意見が反映されるということがあるのか、それとも形だけ行っているのか。

それと、審議会の答申では編入という言葉が使われていて、先ほどの説明ですと、編入という言葉があるけれどもイメージとしては統合ですというような説明がありましたが、編入と統合というのは全く違うことだと思います。そこは大きな問題だと思います。

それは、審議会の方で編入と言ったにも関わらず、教育委員会の方で統合という解釈をされているのか、審議会の方で統合という意味で答申をしているのか、どうしてここで統合という言葉が使われていないのかということをお聞きしたいです。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

説明会の位置付けですが、先ほど説明させていただきましたように、現在は③の段階でございます。審議会から答申が出たというところで、ある程度の方向性が示されたという状況です。

決定の前に、方針が示された段階で地域の皆さまに状況をご説明した上で、ご意見を伺い、そのご意見も踏まえて、最終的に④の教育委員会議の方策の決定を行いたいということから、今回このような形で地域の説明会、ご意見を伺う場を設けたというところでございます。

編入と統合は違うのではないかとこのところで、確かに言葉的には違うというところがございますが、こちらは審議会でも論点になり、基本的には統合という考え方を示させていただきました。

ただ、表現的にはその場では変わらなかったもので、その考え方だけがお示しされたという状況でございます。

#### ○参加者

編入と統合というのは、考え方そのものが違うと思うのですが。審議会の方で、統合ですということになったのか、言葉の問題ですとおっしゃっている教育委員会側なのか、大きく違うと思うので、そこをもう少し説明いただけますでしょうか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

29 ページに答申内容を書かせていただいています。田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策とありまして、審議会での答申では、学区から見て今の田浦小学校区を長浦小学校区に編入するということですが、学校から見ればこれは統合ということであると審議会の方でも結論が出ています。ただ、学校として考えたときには、田浦小学区を長浦小学校区に編入し、学校施設は長浦小学校を使用するということがこの文章の方で表現をされているということになりますので、統合ということになります。

#### ○参加者

長浦小学校側としては、資料の最後に記載の意見の通りです。

編入というように考えていたので、田浦の方々が来るという形で、全く長浦小学校としては変わらないものだと思っていました。

そうではなく、長浦小学校としても終わり、新たな学校ができるということは決定しているということでしょうか。

### ○古谷教育総務部長（事務局）

今回の検討は長浦小学校、田浦小学校ともに各学年が1クラスずつの小規模校であり、その小規模校について学校教育を考えたときに、デメリットも多いことですので、何とか解消したいということで検討が行われています。

そのため、今回については、長浦小学校と田浦小学校が対等な関係で統合し、新たな学校になるということになります。

### ○参加者

今、娘と息子が長浦小学校に通っていて、私も親も、その親も、そしてその親も長浦小学校に通っています。昔からさかのぼれる限り、尋常小学校の頃から長浦小学校に通っている一族のものです。

先ほどのご質問にもありましたけれども、編入と統合は全く別のことだと思っていて、答申の内容に編入と書かれていて、資料の上でも編入と書かれていて、でも実質は統合ですというのは、非常に理解に苦しむ内容だと思います。統合なら統合でそれならしょうがない。しょうがないと思うかどうかはまた話は別ですが、資料の上に統合と書かれているのであれば、そのように地域の人たちも話し合いができると思うのですが、資料の上では編入と書かれている。編入ということはこのようなことである、統合ということはこのようなことである、でも実質は統合として扱っているというのは非常に理解に苦しむ回答なのですが、そこについてはいかがお考えでいらっしゃいますでしょうか。

### ○古谷教育総務部長（事務局）

審議会の議論の中でも、このような形で学区を編入するというような書き方をしていますけれども、中身については統合ということで議論が行われておりました。特に付言のところ、審議会からあえて意見があったのは、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにするということが付言としてされています。

これについては、今回、田浦小学校の子たちが長浦小学校に移ることになりますので、転校のような形になってしまわないような、そんなイメージを持たれないように気を付け、スムーズに統合が進められるように配慮してくださいという内容でございました。大変分かりにくいかもしれませんが、編入と書いてあるのはあくまでも学区が編入ということでありまして、形としては学校同士の統合ということになります。

### ○参加者

それは統合です。

長浦小学校も田浦小学校もなくなり、校舎はそのまま使うけれども別の小学校になります、校歌も別々になります、ということ、長浦小学校の地域にご説明をいただきたいです。

長浦小学校区にいる保護者及びOB、あるいは、これから通う方はこだわりがないかもしれませんが、そういった方の中で、長浦小学校ではなくなるのだ、校歌も変わるのだというイメージを持っている方は、ほぼ皆無だと思います。

P T Aに深く関わってきて、以前から会議に関わりがある方、及び極めて親しい方に関しては、ご存知の方もいるのかもしれませんが、この会議に参加して、周りに話そうと思った、あるいはP T Aの書類として、このようなことが検討されています、小学校の名前が変わる

かもしれません、校歌が変わるかもしれませんということを、PTAのお便りとして出そうとしました。

しかし、それは少し控えましょうというご意見をいただいたためにそういったお便りが出せなかったり、もう少し表現をやわらかくしてくれないかというご意見があり、出せなかったという背景も把握しています。

長浦小学校が長浦小学校でなくなるのであれば、長浦小学校の地域への配慮、周知、もう少しいただきたいし、長浦小学校がなくなるんです、校歌がなくなるんですということがもし決まっているのであれば、それを前提として、なくなりますか、それで良いですかという意見の聞き方をしていただきたいのですが、それはいかがでしょうか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

新しい学校になると申しあげましたのは今回の統合によって子どもたちの気持ちの問題として、二つの学校で新しい学校をこれから作っていきますということを話したいと思っているということです。

校名につきましては、統合が決定した後に、今度の新しい学校の校名をどうするかというのは、検討したいと思っています。その時には長浦小学校区の地域の方々、田浦小学校区の地域の方々と一緒に、新しい学校についての校名を考えていきたいと思えます。その中で、引き続き、長浦小の校地を使うのであれば、「長浦小学校」として継続していくのか、もしくは、新しい学校になるのだから新しい学校名にしようということになれば、新しい校名にしていくということです。それについてはまだ決定しておりませんので、今後の検討になるということです。

#### ○参加者

今の回答を参考にさせていただき、回答を私の方で少しまとめさせていただくと、田浦小学校区を長浦小学校区に編入することは決まりである。学校としては長浦小学校と田浦小学校を一つのものとして再構成をするということは決まった。けれども、その校名をどうしようか、校歌をどうしようかということについてはまだまだこれから検討が必要なことであるので、そこについては決まりではない、という理解でよろしいでしょうか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

仮に統廃合が決定した際には、おっしゃっていただいたとおりになります。

#### ○参加者

先ほどの回答にあった、統合は決まりなのだという回答も、言葉の使い方として、いささか不親切なのではないかなと思いますので、そこについても、今後の検討会等の時にもご配慮いただけると分かりやすいのかなと思います。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

ご指摘ありがとうございます。今後配慮したいと思います。



## ○参加者

一昨日も参加させていただきました。一昨日は5分間ぐらいお時間いただいて、原稿を読ませていただいたのですけれども、今日は長浦の方も来ていただいていることと、田浦でも別の方も来ていただいていますので、少し内容は重複してしまうのですけれども、もう1回発言させていただきます。

小規模校には魅力を感じて学区外から通わせていただいている親として、日々田浦小の先生方にはさまざまな工夫をしていただけて大変感謝しています。今回の答申を重く受けとめて、長浦小との統廃合を進めるのであれば、先日の説明会に参加した際の反対意見の勢いや、まだ提案されている案に参加者の多くが納得できていない状況からは少し違和感を覚えざるを得ないです。

メールやFAXで事務局へ意見をやる機会があったと理解していますけれども、金曜日の田浦小学校での説明会では反対意見で時間いっぱい過ぎていったということを考えても、意見の募り方や問題点の提示の仕方に問題があったのではないかと思います。

少子化が市内全体に生じていて、レッドゾーンについては横須賀市の地形の影響というようにお伺いしていますけれども、統廃合に反対の意見が少なくない中で、生徒数や築年数で順番に走水と田浦の統廃合を進めるのではなく、市全体の問題として、同時並行で市全体として教育方策を前向きに考えるべきではないでしょうか。

田浦には多くの国籍の方がいらっしゃいます。日本中で見ても国際的な視点を持てる特別な地域だと思います。宗教を超えて、子育てをできる世界的にも類を見ないダイバーシティが実現された地域だと思います。田浦は日本のロールモデルとすべき誇るべき地域です。マイノリティに関する悲しいニュースが多い現代で、田浦で子育てをできることに大きな可能性と希望を見いだしていました。また、縦割りの教育の中で、子どもたちは年上に学び年下に教える社会性を身につけ、個性を尊重する余裕が感じられます。子どもたちも地域も、自分ができることをして弱者を助け、時には逆に支えてもらう環境が整っているのが田浦小と田浦の町です。

毎年学区外からでも、田浦小の三組への進級を希望される方がいらっしゃいます。ダイバーシティの中で、子どもたちの内面が豊かになっており、子どもをやさしく大きく育ててくれている田浦の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。親としても三組の親御さんの立派さや大きさにいつも助けられています。神奈川県が掲げる「ともに生きる」という言葉は垣根をなくし、それぞれの地域でそれぞれの個性や特徴を大切にすることを目指していると理解していました。少数数制より効率化を重視する田浦と長浦の統廃合は、時代の流れに逆行しているように感じます。多くの場面で合理的な見直しが必要な中、個性を伸ばす教育の現場だけは、効率化に疑問符を打ち、教育のプロとして、時代の流れにフレキシブルな意見を取り入れる場であるべきではないでしょうか。デジタル化が進む時代でこそ、大好きな地元を貴重な小学生時代に作ることが、大人になったときの心の豊かさに繋がると思います。

行政では、教育福祉、地域の活性化は、縦割りで別分野だからということでないがしろにされがちだと思いますが、時代の流れからしても、今回反対意見を持つ者たちの意見としても、それらの分野が膝を突き合わせた議論が必要だと思いますが、やはり今の市政では難しいのでしょうか。

学区外からでも、複数の家庭が通わせたいと思う田浦小、子どもが安心してハロウィンのトリックオアトリートできる田浦の町で、お金では買えない子どもたちの無限の可能性を

伸ばす教育より、他の分野を優先する市政には相応の代償があるでしょう。今回の学校の引っ越しがなければ生じえなかった悲しみがありました。長浦より船越小を選ぶという意見も聞かれ、子どもは卒業以外の別れを、田浦で育ったばかりに経験することになります。子どもをもって意見を述べたり、勇気を出して行動を起こした大人同士の対立も、市政や教育委員会は責任を取ってくれるのでしょうか。今までの説明では子どもも私も納得いきません。政治を動かすことはできないかもしれませんが、もしこのままの説明で統廃合を進めるのであれば、教育委員会には、小学校教育という無限の可能性を秘めた分野で、田浦小統廃合に値する結果を出していただきたいと思います。

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

ありがとうございました。進め方につきましてはこれまでもお話をさせていただいているところではあるのですが、地域別協議会、こういった説明会、メール等でご意見をいただいています。まだまだ足りないというご意見もあろうかと思えますけれども、引き続き、何かありましたらご意見いただければと思います。

市全体で考えていただきたいというご質問につきましては、これまでの学校の統廃合等に関しましては、地域の形だけでお話を進めさせていただいていたところではあるのですが、今回につきましては、地域別協議会からさまざまな地域の意見をお聞きしながら、適正配置審議会という市全体の観点で教育環境を進めていこうという考え方で進めていますので、ここについてはご理解いただきたいと思います。

#### ○参加者

私の勉強不足ということなのかなと思うのですが、ただやはり納得いかない部分がある、まだみんな残っているというのが現状だと思いますので、それは議事録に残していただきたいなと思ひまして発言させていただきました。先生方には本当にお世話になってますので、このままの教育を受けたいというのが一番の希望です。

#### ○参加者

今事務局から、審議会が市全体の学校の教育の整備を考える場所になっているというお答えがあったのですが、先ほどの保護者の方が聞いたかったのは、市全体のそれぞれの学校の適正配置をどうするかという問題なのかなと思ったのですが、審議会でも田浦地域と走水・馬堀地域の学校をどうするかということをお話合っているということになってはいますが、少し意味合いが違うのかなと思ったので。私もそのことをせっかくだから伺いたいのでもう一度教えていただければと思います。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の教育環境整備計画は、当然全市的な視点でも策定をされているというところがございます。というのは、これまで横須賀市においても、小学校・中学校の統合を過去行ってきました。それらがどういう状況だったかという、基本的に小規模だけの理由で統合してきたという状況がございます。ですので、地域がどうこうではなく、その学校同士だけの話でした。これまでは、小規模をどうするかということのみで対応してきたということです。

ですが、今回の教育環境整備計画については、全市的な人口減少により全体的に小規模に

なってきたという状況もありますし、また、子どもたちが増えてきたときに、当時建設してきた学校が老朽化してきてしまっているということで、学校施設の老朽化という課題も出てきました。また、それらを建て替えるに当たっては、神奈川県が調査して公表しているレッドゾーンなども考慮しなければいけません。

通学区域の問題、小規模の問題、学校施設の問題、距離の問題もあります。このように教育環境を取り巻くさまざまな課題が出てきてしまっている状況の中で、教育環境整備計画を作ったということになります。

考え方としては、個別の学校同士の話ではなく、地域を広げた形で、地域単位で検討するという考え方に基づいています。ですので、今回、田浦地域という表現、走水・馬堀地域という表現で、そこにある小中学校の課題はどういうものなのか、それを改善するためにはどうすれば良いのかということの検討を進めていくという計画でございます。

後期計画についても逸見・中央地域ということで、逸見、沢山、汐入、桜という四つの小学校はそれぞれ課題を抱えていますので、そのような地域ごとに、イメージとしては中学校区ぐらいの範囲になると思いますけれど、その範囲で検討を進めていくことになります。

#### ○参加者

中学校区で協議をするというのは当然のことだと思うのですが、その中で置かれた当事者が、市全体のことが見えにくいということで、自分のところだけどうしてという気持ちになりがちになってしまうということだと思います。

今のお答えからもやはり、全体としてこのような計画があるからという未来の姿が見えにくいというのは、そうなのかなと思います。

#### ○参加者

私たちは、田浦小の3年生です。田浦小が引っ越すすることについてアンケートを取りました。3年生のクラスの23人に配って、17人が回答しました。

まず、田浦小が引っ越すことについてどう思うかのアンケートを取りました。長浦小に行きたい人は0人でした。田浦小にいたい人は15人でした。どちらでも良い人は2人でした。

次に、距離が遠い場合どうしたらいいかアンケートを取りました。車が2人でした。歩きが0人でした。スクールバスが13人でした。京急バスは0人でした。無回答は2人でした。

次に、長浦小に行くことについて心配なことがあるかアンケートをしました。田浦小から引っ越すのが心配、通学のトンネル、友達関係などがありました。

次に、田浦小から引っ越すことに何か意見があるかアンケートをしました。とても嫌、引っ越すのが悲しい、長浦小に行きたくない、引っ越すのを延ばして欲しい、100周年なのでもっと続いて欲しいなどがありました。

アンケートの結果は以上ですが、私は家から長浦小が遠いので、スクールバスを出して欲しいです。長浦小が遠いのでできるだけ引っ越しを避けて欲しいです。これで、アンケートの結果報告を終わります。

## ○古谷教育総務部長（事務局）

ありがとうございました。一昨日もアンケートの結果を聞かせていただいて、本当に勇気を出して、大人ばかりの中、発言していただいてありがとうございます。

一昨日お話できなかつたので、今日せつぱくなので少しお話をさせてもらいたいと思います。

田浦小学校で今3年生ということで、3年間過ごしてきて、3年生だと20人ちょっとのクラスかなと思うのですけれども、その中でみんな仲良く楽しく、過ごしている中で、長浦小にお引越しというお話を学校の方から聞いたのだと思います。そうすると自分たちがせつぱく今まで20人で仲良くやっているのに、どうして長浦小の子と一緒にならなきゃいけないのかなとか、今よりも遠くの学校に行くのは怖いな、不安だなとか、もし長浦小と一緒にあって、今度2クラスになったときに、クラス替えがあると仲の良いお友達と別れてしまうのが寂しいなとか、本当に色々な不安な気持ちを持っているのかなと思います。

ただ、私たち教育委員会は、学校というところではできるだけ多くのお友達、多くの先生たちと知り合ってもらって、その中で、色々な考えを一人一人が持っているので、色々な考え方、知っていること、色々な人に出会って、たくさんのことを吸収して欲しいなと思っています。

お友達が増えれば今まで気づかなかつたことももっともつと気づくようになるだろうし、こんな子がいたのか、こんなことができる子もいるのか、じゃあ自分ももっと頑張ってみようかなとか、今までよりも世界が広がるということもあるのかなと思います。ただ、今は本当にみんな仲良く暮らしていると先生から聞いていますけれども、時には人数が増えれば、喧嘩をしてしまうこともあるかもしれません。ですが、それは大人になるためには必要な経験だったりするわけで、喧嘩しなさいと言っているわけではないですが、喧嘩をする中で、このようなことを言ってしまうと相手を傷つけてしまうとか、このようなことを言われちゃったら悲しい思いをするとか、そういったことも学べるチャンスが増えるのかなと思っています。

本当に色々不安に思っていることについては、皆が大丈夫だよと思えるように、学校と一緒にあって、私たち教育委員会もこれから一生懸命考えていきます。

統合すれば、新しいお友達も増えるし、また、これまで田浦の地域の人たちがみんなのために力を貸してくれていたのだと思います。これからは長浦の人たちも一緒にあって、田浦の子たちのために今までより大きな力を貸してくれるようになります。

そんなこともありますよということを今日お伝えしたいなと思っていました。今日いただいたみんなの気持ちはぜひ受け止めさせていただいて、私たちも一番良い方法を考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

## ○参加者

統合は完全に対等の立場で行わないと成功しないという話を聞いたことがあります。その場合は、一旦両方の小学校を廃止して、校章も校歌も新しいものにして、授業の学校の運営の仕方とか宿題のやり方を綿密にすり合わせてしっかり準備しないと成功しないという話を聞きました。

先ほど長浦小学校の名前を残す場合もあるというような発言があったと思うのですが、そうすると、元田浦小学校の児童が長浦小学校に行くといった場合に遠慮と言いますか、

長浦小学校に行くのだから長浦小学校のやり方に合わせなければいけないとか、長浦小学校の児童に合わせなければいけないとか、そのような負い目のようなものを感じてしまう場合もあると思います。これについてはいかがでしょうか。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

統合が決定した後にはその新しい学校をどうしていくかというのは、両方の学校の先生方中心に、綿密に考えていかなければならないと思います。

日課表の時間も多少ずれているかもしれませんので、それを新しい学校ではどうするのか、長浦小学校に合わせるのか、田浦小学校に合わせるのかですとか、もしくは新しいものを作るのか、そういったことも含めて検討します。

長浦小学校に全て合わせるということではなく、部分的に合わせるものもあるだろうし、田浦小学校に合わせるものもあるだろうし、新しくこうした方が良いのではないかということで新しい形を作っていくものもあるかと思っています。

先ほども申し上げたように、田浦小学校の子が転校という形にならないように十分に配慮していただきながら、学校同士で綿密に打ち合わせをして、また、事前には子ども同士の交流ももちろんやっています。これまでの統合の中でも、そういったことを十分配慮しながら行ってきていますので、そこについては不安のないような形で進めていきたいと思っています。

#### ○参加者

それに関連してもう一つお願いします。実際に起こったケースで、統合して、生徒からアンケートを取ると、友達が増えたとか新しい先生がやさしいとか、大人に配慮したようなアンケート結果が出てくるそうなのですが、実際には学級崩壊が起こってしまった、あるいは学校に行きたくないと嫌がるようになる子が出てきたとか、そのような場合があったそうです。

校長にそのような事態を訴えると、それは教師の力量不足である、生徒個人の問題、保護者に問題があるなどと、統合を原因としない傾向があるようです。それによって、学校の乱れのようなものに対して全校的な対応が遅れるというようなことがあったという話を聞いたのですが、これについてはいかがでしょうか。

#### ○川上学校教育部長

その事例というのは横須賀市ではないですね。

#### ○参加者

東京都の学校の事例と聞きました。

#### ○川上学校教育部長

横須賀市だけではなく、少子化に伴って全国的に統合が進んでいるところでして、その地域それぞれだと思っています。ご心配として挙げていただいた、統合後に学校に行きたくない、不登校になってしまうお子さん、学級崩壊という言葉もありましたけども、学級がなかなかうまくいかないですとか。

これは今の段階で、それは絶対大丈夫ですとは言いきれないところはありますが、総務部長の方からもありましたけれども、もし統合が決まったならば、その準備期間の中で、子どもたち同士の交流、教職員の交流を行い、その中で田浦と長浦の子どもたちにとって、例えば時間割はどうかとか、最適な教育課程をとということで綿密に話をしていくような機会を私たちも含めて、これから進めていかなければいけないと思います。

また、統合後には、不登校になってしまうようなお子さんをケアできるような支援体制についても、これまでの取り組みの継続にプラスした充実した配慮をしたいと考えています。

#### ○参加者

もう1点だけよろしいでしょうか。将来推計、生徒数の将来推計について、資料16ページ17ページなのですが、16ページの生徒数、学年別の生徒数は、1年生から6年生の数字を見ますと、コンスタントに20名以上いますよね。ですから、極端に生徒が減っているという現状ではないと思います。

今後もこの割合で、横ばいでいくのではないかと考えているのですが、将来推計ですと、令和5年が130人、その次の年が117人、令和7年が109人というように、どんどん減っています。

この推計の根拠をお聞かせいただきたいです。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

この推計の出し方ですが、端的に言いますとスライドです。

田浦小学区、長浦小学区に今現在いる0歳から5歳までの人数を単純にスライドさせていくと将来的にこの人数になりますということです。未就学の子たちが減っているということになります。

#### ○参加者

先日の田浦小学校での説明会も参加させていただきました。その際は、PTAの役員でありますので、保護者の代表として、具体的な案はどうかということを中心に質問させていただいたつもりです。

先日の説明会、そして本日の説明会、そして審議会、地域別協議会でさまざまなご意見が出ている中で、期限の問題が非常に気になっているところであります。

さまざまな課題が出ている中で、本件を1月に決定をしなければいけない、さらには最短で令和7年度からスタートできるという発言も記録に残っている中、現状、これだけの質問が皆さまから出ていて、令和7年でいけると思えますか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

色々な課題があるということは認識しています。

過去の事例ですと、検討から統合まで約3年ぐらいです。内訳としては1年程度で検討、結論を出し、残りの期間で統合に向けた準備を行っているという実績がありますので、まだ決定ではありませんけれども、基本的には間に合うと考えています。

### ○参加者

本当にそのように感じているとなると、異常に感じるのは私だけでしょうか。かなり複雑な案件だなと思っています。今日はPTAの保護者というよりも地域の住民として質問させていただくため、2回目の今日もお邪魔させていただいているのですが、常識感と言ったらきりのない話になってしまうのであまり話したくはないのですが、ここまで皆さまが危惧されているものが解決されず、さらにはそれに対しての具体的な説明がない中で、この期限がいけるというのは、何を根拠にそう思われているのでしょうか。

過去の事例と今回は違うということも総務部長さんがお話されたと思うのですが、それを踏まえてでも令和7年でいきたいのですか、いくのですか、どちらでしょうか。

### ○大堀教育政策課主査（事務局）

いきたいのか、いくのかということではなく、想定すると最短で令和7年度ということですので、まだ確定ではないというところでございます。

### ○参加者

分かりました。そうしますとさっきの耐震性云々の話を含めて、慌てて決めるものではないと私は思いますので、ぜひ期限に関しては慎重に皆さままでご検討いただきたいと思いません。

さらに、この教育環境整備計画について、令和7年というのが前期計画の結論のようで、前期後期とありましたけども、それに合わせて話をしているのではないかなというのが、やはり前回からの説明会でも感じてしまったところがあります。

市議会議員もこの案件については急ぎなさいというお話もあると先ほどありましたが、もう一度確認したいのですけれども、なぜ走水と田浦がまず選ばれたのかなということをご説明いただきたいです。お願いします。

### ○大堀教育政策課主査（事務局）

走水が選ばれたのは、走水小学校が市内で一番小さい学校であるからというところなんです。全校生徒で32人です。1クラスよりも少ない状況で、かつ現状2年生が1人ということで、複式学級という形になっています。これは、1年生と2年生が同じ1クラスで学ぶという状況です。基本的には離島や過疎地でしか想定しないものであり、横須賀市では今回初めてという状況です。この小規模化を解決するため、また、馬堀小学校も小規模化になっているところから、前期計画に位置付けられたというところなんです。

田浦地域につきましては、田浦小学校が一番古い建物なので、施設の速やかに対応が必要というところ、かつ田浦小学校と長浦小学校の小規模化がございまして、それらの課題を踏まえて、前期計画の位置付けされました。

その後に逸見・中央地域ということで、こちらにも4つの小学校が小規模かつ老朽化していますので後期計画に位置付けられたという形になっています。

### ○参加者

先ほどどなたかが質問されたと思うのですが、他の地域の学校も検討をしなければいけないようなところがあるにもかかわらず、今回田浦と走水が選ばれたのは今ご説明いた

だいたとおりののかなと感じるのですが、それと同時に、走水と田浦地区というのは市議会議員さんが網羅されてないエリアです。ここで市議会議員さんがどうこうという話ではないと思うのですが、それはどうなんだと言える代弁者というのが、今までいなかったのかなというも、何となく感じてしまいました。ぜひそういったところは関係なく、子どもたちの未来のために考えているということを一貫して進めていただきたいなと思います。

今度は地域の話になるのですが、田浦地域は市営住宅が多くあった地域でありました。1つは今アーティスト村ということに変容していて、もう1つは6丁目に新しく個人の高齢者の方たちが住まわれている市営住宅になっています。もう1つは老朽化ということで閉鎖されたのですが、その後どうなっているか、どうにもならない状況で放置されているのが現状だと思います。

もし、田浦小学校が廃校となったとき、跡地の問題についてはまた別の問題だということ置き去りにされているような案件になっていますけれども、その後どのようにしていくのでしょうか。さらには、災害避難所となっている場所でもありますので、そのことの検討についてはどこまで進んでいるのかをお聞かせいただきたいと思います。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

跡地利用については、方策が決定しないと検討できない、ご意見を伺えないという状況がありますので、決定後に改めてご意見を伺う場を設けないといけないと思っています。

なお、跡地利用については、教育委員会が主導ではなく、市長部局のFM推進課というところが主導になるのですが、だからといって教育委員会がすぐに手を引くということではなく、全市的、全庁的な取り組みとして検討を行っていくということになります。

検討に当たっては地域の皆さまのご意見、ご要望を伺いながら検討していきます。

お話ありましたように、避難所にもなっていますし、また、投票所にもなっています。さらには、地域の活動の場、拠点にもなっていますので、それらの意見、ご要望をお伺いした上で跡地利用を検討していくという形になります。

#### ○参加者

地域の皆さまとお話をさせていただく機会があったのですが、やはりそういった細かなところ、決定しなければ分からないことが多く、疑念を抱いているところがあります。

こういった説明会に関して見れば、教育委員会の皆さまだけではなく、関係部署の皆さまの意見もお伺いしたかったというのが率直な意見です。ぜひ検討する際は、教育の観点から、まちづくりの観点から、防災の観点から、さまざまな検討を図っていただきたいなと思います。

もちろん学校は子どもたちの教育の場というのが最大の目的、目標ではありますが、地域の真ん中である学校ということをもう少し考えていただいて、この町はこの後どうやっていくのだろうかということを考えていただければと思います。

私は商売の傍ら、移動販売を営んでおります。なぜやり始めたかというのは、ここで話す必要はないのですが、買い物困難者を救済するためです。ただ、その事業を進めている中で、これもたまたまなのかわかりませんが、買い物困難者がいる高齢者が多く、高齢者に手助けをしてくれる方が少ない地域というのは、学校がない地域です。そうすると、市営



住宅がそのままになっているような、さらには学校がなくなって、新たな定住者がいらっしやらないような地域には、おそらくそういった課題も出てくると思います。

全市的に考えていかなければならないということもお話がありましたし、さらには、これからモデルケースにもなり得るという観点で本案件を進めているという話も前回伺ったのですけれども、そういったまちづくりの観点が欠けているなどとも感じています。

これは教育委員会の皆さまにお話することではないかもしれませんが、この学校の廃校という観点では同時期に進めていかなければならないものだと思いますので、ぜひそちらの意見もお伺いしたいと思います。今教育委員会の皆さまにお伺いすることではないのですが、今の段階では皆さまはどうお考えでしょうか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

まちづくりの観点というお話はこれまで協議会でも審議会でもいただいています。

懸案事項としましては、学校が遠くなることによって、通学が大変になり、若い世帯が住まなくなるという部分が心配される点でございます。その点に関しましては、通学の安全の確保をするための現状案としては、スクールバスや通学補助の検討をしているというところでございますので、そういったようなものの形で対応できればと思っています。

それ以降の話になりますが、学校がなくなることによっての地域の衰退という部分もお話をいただいています。これにつきましては、今お話ありましたように、学校は地域の拠点でもありますので、学校がこれまで果たしてきた役割、地域の拠点、機能というところを注目して、地域の皆さまからお話を伺いながら、どういう機能が必要なのか、どういう役割が必要なのかというところを伺い、跡地利用を検討していきたいです。

さらには、ご意見を伺う中で、地域の皆さまから田浦地域にはこのようなものが必要なのだというようなご提案がいただけると大変ありがたいと思いますので、ご意見を伺いながら検討したいと考えています。

#### ○参加者

本案件を皆さまが進めている中で、成功事例というか、こうなっていきたいという事例を参考にされているということはございますか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

これまで、小学校の統合でいうと平作小学校がございまして。これについては、中学校の給食センターを新設いたしまして、これまでなかった中学給食が開始できたというようなところは事例としてございます。

#### ○参加者

全国ではこのような統廃合の話が多くあると思うのですが、スモールスクールという観点の話は出なかったのでしょうか。

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

スモールスクールというのはどういったものでしょうか。

○参加者

少人数でも魅力のある学校づくりをしている皆さまの話です。

○飯田教育政策課長（事務局）

小規模特別認定校という制度のことかと思います。

横須賀市の方針の中では、まず、学区の整理をしていきます。ただ、こういった小規模などがどうしても解決できない時、小規模特別認定校というものを位置付けてはいるのですが、やはり小規模そのものを何とかしなければならないだろうというところで、横須賀市としては課題を持っていますので、そういった小規模の認定校を作っていくということは現時点では考えていません。

○参加者

分かりました。先ほども保護者の皆さまがお話されているように、学区外からでも田浦小学校に通いたいという意見が多くありました。そういった観点から、小規模校は作らないということとなると、それは片手落ちなのではないかなと考えています。

児童数と耐久性の両輪で考えなければならないという話はもう重々承知していますけれども、魅力ある学校づくり、地域づくり、まちづくりという点では、そちらの方の考え方が欠けているのではないかと思っていますので、ぜひご検討の可能性があれば考えていただきたいと思います。

最後になりますけれども、具体的な話ではありますが、市全体でこの案件を進めていくということで、全市的に考えてという話だったのですが、これは画一的にどの学校も同じようなやり方で今後進んでいくものなのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回は教育環境整備計画の前期計画でやっておりますので、今回の検討を踏まえて、直していく部分や、進め方、再検討する必要がある部分も出てくると思いますの。

ご意見を伺いながら、変えていくところは変えていきたいと考えています。

○参加者

田浦小学校側から、スクールバスというか、交通手段に関して、かなり前に同じ地域の施設から送迎バスの貸し出しが可能であるという提案書をそちらにお出ししていると思うのですが、そちらはどのように協議されているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

お話は伺っていますので、ご協力いただける部分については、ご相談させていただきたいと思っております。お話しする場は設けています。

○参加者

話が進んでいるということでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

具体的な話は進んでいませんが、今後とも連携を図りながら、一緒に何ができる、できないという部分があると思いますので、ご相談させていただきながらと思っています。

○参加者

画一的な魅力のない学校づくりではなく、魅力のある、あの地域に住みたいというような学校づくりを心がけていただきたいと思います。さらには具体的な質問が多く出ていますので、その質問をないがしろにせず、決議をしていただきたいと思いますので、是非ともそちらは具体的な対応をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○参加者

うちの子が少し特別な支援が必要な子でして、今回の統合の件に関しまして、統合される前に正直転校させたいなと考えています。学区外の方から来ているお子さんもおられるということですが、うちはそのように考えています。

子どもを第一に考えて、支援が必要な子なので、統合は100%混乱が生じないということはないと思いますので、その前に転校させたいのですが、その場合、自己都合の転校扱いになってしまうのか、もしくは、支援していただけるのであれば支援していただきたいなと考えているのですが、その件に関しましてはどうでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

その話については、おそらく個別の対応になると思います。

教育委員会に特別支援等のご心配のある方のご相談や学区の変更等のご相談を受けている支援教育課という課がありますので、そちらの方にご相談していただいた上で対応を検討させていただければと思います。

○参加者

支援が必要ない子も転校したいという家庭も当然いるとは思いますが、そこはどうですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

基本的に統合で、例えば、学校がなくなってしまうのは嫌だから先に学校を変更するという事由、もしくは、小さい学校が単純に嫌だからとかという理由で変更するということはできません。

横須賀市の規定では指定変更のルールがあり、その条件に当てはまった方が手続きをとることによって学校変更ができるという形になります。

○参加者

田浦小学校を長浦小学校に統合するという事について反対という立場でお話をさせていただきます。

子どもが少なくなって、生産年齢人口が減ってくるというのは当たり前のことで、横須賀市に限ったことではないとお考えなのではないでしょうか。あまりにも生産人口が減るのが多すぎ

るのではないかということで、横須賀市の方でももう少し流出を減らすことを何とか考えていくということもしていただきたいと思います。

長浦小学校に通うようになると、30分ぐらい通う時間が長くなるということは、子どもたちは30分早く家を出なくちゃいけない、30分早く起きなくちゃいけないということになります。そのようなことを考えると、1年生や2年生の小さい子どもたちを30分早く起こしてというのは大変なことだと思います。また、スクールバスと路線バスの補助というお話も出ていましたが、以前、協議会を傍聴した時に、「スクールバスや補助はどうなるのですか」というお話が協議会委員から出たときに、「それは難しいと思います」というお返事があったと思います。その後の協議会の中でどのように変更になってきたのか分からないのですが、「検討します」というお話になってきています。

老朽化で道が狭いから工事ができないので田浦小学校は直せませんというお話でしたけれど、跡地を利用する際にどのようなことにするかについても、工事は必ず必要になってくると思います。そのときに、道路が狭いから工事ができません、跡地も利用できませんということになってしまうと、単なる廃墟になってしまいます。そのようなこともよく考えて検討していただきたいという意見を申し上げたいと思います。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

通学支援について、これまで協議会や審議会において「対応が難しい」とお答えしたという認識はございません。通学の安全確保については最優先で必須だとお答えしてきたつもりですので、そのように考えています。

#### ○二見学校管理課長（事務局）

田浦小学校の敷地の利用ということですが、学校そのものを建て替えるということが、どうしてもこの規模のものはできません。それは確認してあります。

理由としましては、学校の敷地が全体で7,000平米程度あるのですが、1,000平米を超える敷地を活用するには、それ相応の道路が太い道路から繋がっていないなければならないというルールが一つあります。

また、1,000平米以上のものを建てるに当たっても、道路の要件が色々出てきてしまっ、今現在田浦小学校の周りの道路ではその要件を満たすことができません。

また、大規模な開発行為をするような、開発許可というような形をとるようになりますと、学校敷地の中に食い込んであります体育館の裏の土手の部分が土砂災害特別警戒区域というレッドゾーンというものにかかっています。

以上のことから、市の都市部という都市計画法、建築基準法などを担っている部局と何度もお話しさせてもらって、相談させてもらった結果、学校そのものの建て替えは小学校の規模ではできないという結論に達しています。

これから先、どういった土地利用をしていくのかということは私どもから何も言えませんが、いずれにしてもその道路の制限ですとか、あるいは土砂災害の関係の法令の制限というものは残りますので、今後どう利用できるのかというのは、今の段階で、これはできません、あれはできませんというのは言えません。

いずれにしてもグラウンド全部を使って同規模の建築物を作っていくという行為はできないと思います。

### ○参加者

レッドゾーンがありますというお話ですけれど、あそこは避難場所になっているわけですから、学校の敷地云々よりも前に、レッドゾーンというのはきちんと整備していただければ、我々も避難するといっても怖くて避難できないと思います。大きな地震があった時にそこが崩れてしまったら避難場所にならないわけですから、何よりも早くそのレッドゾーンというのをきちんと整備していただきたいと思います。

### ○二見学校管理課長（事務局）

私の方からお答えする内容ではなくなってしまうかもしれませんが、レッドゾーンの指定を受けて、そのような危険性があるということをも一つは皆さまにもそういった認識を持ってもらわなくてははいけません。それと同時に、市としては、そういった避難等々の方法ですとか、周知をしなればいけないということになります。

建物を建て替えるに当たっては、その部分を何かしらの形で、例えば擁壁を作るとか、土砂災害に耐えるような強固な建物を作るとか、というようなことがありますけれども、その部分については私どもが所管している部分と少し違うところもありますが、学校敷地にレッドゾーンが入っているという現実がいくつもの学校で発生していますので、それは一つの課題として、我々も受けとめているところでありますので、それぞれの部局とともに、検討していかなければいけないと思っています。

### ○参加者

今まで協議会や審議会で数回にわたって議論をしてきて、その構成員としては、学校側とかPTAとか地域のそういったさまざまな人が出ていますので、それぞれの大きな問題が出てくるのは当然だと思います。

今回の答申では、学区を長浦小学校に編入するという事で、実質的には田浦小学校と長浦小学校の統合、それで環境設備については長浦小学校を使うという理解をしています。

地域の皆さまはかなり子どものことを心配していますので、いろんな意見が出てくると思っており、ベストな回答を求めることも必要なのですが、それぞれの参加者、地域、学校、PTAなどそういった人たちがいろんな意見を出し合って、ベターな結論を出して落ち着いていくということが必要ではないかと思います。

私は子どもも孫も小学生はおりませんので、場違いな話をしているかも分かりませんが、ぜひそのような形で、準備内容をしっかり教えていただき、準備期間がどのくらいかかるのか、早くして令和7年4月ということにこだわらずに地域の皆さまの意見を十分に聞いた上で今後の会議等を進めていただければと思います。

### ○参加者

私はこの地域の縁もゆかりもない人間なのですが、子どもが来年から小学校に行く年齢でして、今日いろんな話を初めてお伺いして、田浦小学校の学区になるのですが、田浦小学校はすごく魅力的な学校だということを認識することができました。長浦小も大きな歴史がある学校だということも理解できました。

皆さまの意見が平行線をずっとたどっていくのかなという感じもしております、その

中で、先ほどの方からもありましたように、100%全てを満足することは難しいかもしれませんが、100に近づける努力は必要だと思います。

令和7年4月からというところにこだわらないとありましたけれど、ここの期間を定めるということは、市では後々の計画を進めていく上で重要なものなのかなというようにも感じています。

この田浦と走水を最初の編入統合として、進めていき、後へとつなげたいというのは分かるのですが、十分な説明、納得のいく説明というものがないと、全員がベクトルを同じ方向に向けて進めていくのは不可能だと思います。十分に議論を重ねていただいて、今後も進めていっていただきたいなと思います。

今日の皆さまの意見の中でも、第7回の協議会の意見にあったものが結構多く出ていますので、やはり地域の方は同じことを、教職員含めて感じていらっしゃるなと思いますので、十分この意見に耳を傾けていただいて検討していただければと思います。

### ○参加者

保護者として、田浦小学校の建て替えを行うのが困難であるということは理解をしましたが、レッドゾーンにかかっているのは体育館だけのように見えます。築年数が長いのも、(1)の校舎だけです。(2)の校舎も築64年と船越小学校と6年しか違わないです。さらに、この田浦小学校の学区を見ると、この広範囲なところに小学校がなくなるというのは、なかなか考えにくいところなのかなと思います。

私は長浦小学校区に住んでいるところではありますけれども、田浦の人としては容認できないことであることは想像に難くないです。私も同じ立場であれば、少し考え直してくれというところだと思います。

教室もまだ使える設備がるといことと合わせての話ですが、すでに③の答申のところまで来てしまっているというところを考えるとなかなか難しいのかなとは思っています。

しかし、例えば、1年生に30分歩かせる、あるいは公共交通機関を使わせるというのは保護者として抵抗があるのであれば、学校の校舎の中でまだ耐用年数の残っているところで対応可能な児童数まで、1年生から3年生か4年生までを田浦小学校の中に残し、5、6年生なら交通機関に乗れるでしょうということで、5、6年生から長浦小学校へ動かすという方法もあると思います。

学校という制度から外れて難しいかもしれませんが、そのような形であれば、まだ田浦小学校も残る地域として、小さいうちは近くにある小学校に通えるということになります。

最後まで通いたいというのは絶対的な意見として強いとは思いますが、まだ妥協のできる場所なのかなというところではあります。

それと、船越小学校も耐用年数が遠い話ではなく、検討しなければいけないときに、レッドゾーンが一番、小学校の敷地に関わっているのが船越小学校だというようにこの資料では見えています。

船越小学校をどうするのかという問題も含めて本来今回考えるべきだったのではないのでしょうか。3校合わせてどうしていくのかということを考えるべきだったのではないかなというところがあります。

また、先ほどの方の話の中で田浦地域の市営住宅が放置をされている地域、あるいは、耐用年数の問題で、そろそろというようなお話があったかなと思うのですが、そういったとこ

ろを活用して、まだ10年、耐用年数的に田浦小学校が使えるのだということであれば、すでに使われていない市営住宅を、例えば、地理的にどれぐらいの距離にあるものなのか把握してありませんが、そこを資材置き場として活用し、田浦小学校を建て直すといった検討を、10年あれば十分検討できるのではないかと思います。

そういったことは答申が出ている段階まで来ているとなかなか検討は難しいことなのではないでしょうか。

#### ○川上学校教育部長（事務局）

そのような事例というのを全国的に聞いたことがなく、分教室とか分校という言葉はあるのですけれども、それがその範疇に入るのか、制度上、認められているかどうかということはお伝えできませんので調べますが、今まで私たちが知っている情報の中でそのような形で一つの学校でやっているという、学年が分かれて生活しているというところはないという認識を持っています。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

小学校というところは、今でも田浦小学校は1年生から6年生までの縦割り活動を一生懸命やっていたらという中では、やはり1年生から6年生までいて、一つの学校だと思っています。それは、時々交流するから良いとか、そのようなことではなく、日常的に同じ施設の中で生活するからこそ生まれるものだと思います。今アイデアとしていただきましたけれども、学年を分けてということについては、少し考えにくいかなというところではございます。

船越小学校の建て替えの件ですけれども、地域別協議会でも一度お話をさせていただいたことがありましたが、ご指摘のように、船越小学校についても近い将来、建て替えが必要になってきます。

また、全市的に少子化が進んでいる中では、船越小自体も小さな学校になっていきますが、今すぐというわけではありません。

今、喫緊の課題としては田浦小学校と長浦小学校の小規模の解消、田浦小学校の建て替えができないということ、この課題を解決するために田浦小と田浦小の統合を検討いたしました。

次のステップとして、次は船越小学校も交えて、この田浦地域全体で小学校の配置をどうするかという検討が必要になってくるかと思っています。その時には、田浦地域での小学校が一つ、中学校が一つとなりますので、小中合わせての検討が必要になってくるかと思っています。

今回の教育環境整備の検討は、この田浦地域に限らず、走水・馬堀地域についても、同じ中学校区の中に望洋小学校という小学校がありまして、同じく望洋小学校も、1クラスの学年が出ているような状況ですので、ここも走水小と馬堀小の統合の後には、近い将来、次のステップとして、望洋小も含めた中での学校の再編が必要になってくると考えているところです。

市営住宅で放置されているところなどを活用し、10年あれば検討できるのではないかとことなのではないかと、これについては、田浦小学校の建て替えが現地では非常に難しいというのは先ほどもございました。セットバックも必要であり、レッドゾーンになっている体育館の裏の部分については、かなり強固な擁壁が必要となります。また、建てるにして

もかなり強固な建物が必要になります。そういった条件がございますので、現時点の建て替えはできないと判断しているところです。ご意見ありがとうございました。

#### ○参加者

この広大な田浦小学校区の中に小学校がなくなるということの重大さを皆さまも感じていただいているとは思いますが。

お住まいの住民の間には、かなり切実な思い、有り得ないという気持ち、気持ちではないのかなとすら思うような内容でございますので、重々配慮をいただきたいと思っております。

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

時間が迫っていますので、質疑応答は以上とさせていただきます。

皆さま、貴重なご意見、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、事務局で取りまとめ、教育委員会議や市議会等にて報告します。

また、資料の35ページに事務局の問い合わせ先を記載しています。

ご質問やご意見等がございましたら、こちらまでお願いします。

最後になりますが、古谷教育総務部長より、皆さまへ挨拶申し上げます。

#### ○古谷教育総務部長（事務局）

本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

現時点で統合が正式に決定されたわけではありませんが、教育委員会が諮問をして、審議会から出していただいた答申は、非常に重いものであると認識しています。

地域の方からは、統合を正式決定する前に、地域から意見を聞く場を設けるようにという声がありましたので、本日、このような場を設定させていただき、検討の背景や経緯を含めた説明をしました。

本日いただいたご意見については、これまでの地域別協議会での意見と併せて、今後の教育委員会での審議に反映します。

立場や考え方によって、さまざまなご意見がある中で、一つの結論を出すということは本当に難しいことであると思っております。地域の方からは、地域の歴史や文化、伝統を守りたいという強いご意見も承っています。ただ、教育委員会としては、現在と未来の子どもたちのより良い教育環境のためにという視点を、皆さまと共有しながら、引き続き最良の方策を検討して参りたいと考えているところです。

本日はありがとうございました。

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、田浦地域の教育環境整備についての説明会は、終了とさせていただきたいと思っております。

本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

以上